

1 社会環境

No.	項目	内容
01	人口減少・人口構造の変化	・平成20年 1億2,808万人をピークに減少、合計特殊出生率・出生数 過去最低水準 ・年少人口・生産年齢の減少、老年人口の増加 ・経済規模縮小、労働力不足、社会保障費負担増、地方都市衰退などに影響
02	頻発化・激甚化する自然災害	・気候変動の影響が全国各地で現れており、大規模な気象災害が毎年発生 ・能登半島地震など大規模地震の発生、今後見込まれる大規模地震への備え ・ハード・ソフト一体となった大規模自然災害等に強い国土強靱化を推進
03	進展するデジタル化社会	・ICTがあらゆる社会・経済活動を支えるインフラとして浸透 ・コロナ禍でICT利用が一層進展 ・デジタル田園都市国家構想による社会課題解決の加速化・深化
04	持続可能な開発目標 SDGsの推進	・平成27年の国連サミットでが採択され、令和12年を目標年次とする国際目標 ・環境分野では、脱炭素社会の実現に向けて、GXを推進 ・SDGsに続き、SDGsからSWGs（ウェルビーイング）への動向
05	グローバル化に伴う 世界的な影響への対応	・気候変動、自然災害、感染症など地球規模の課題がグローバルに連鎖 ・新型コロナウイルスでは、社会経済活動の制限で世界経済から地域経済まで影響が波及 ・世界情勢や為替相場を要因とした物価高騰の影響が地域社会経済に拡大

2 久留米市の現状

No.	項目	内容
01	人口動向	・H28年度：306,211人をピークに減少 → R6年11月：300,440人 ・自然動態のマイナス幅が拡大（R5：△1,505人） ・外国人が増加（R6年11月：6,089人）／若い世代の転出、福岡都市圏への転出が特徴 ・H12-R2で、15～29歳が3～4割減少／70歳以上の単独世帯が約6,000世帯増加 ・未婚率の上昇（35～39歳：H12 男性22.4% 女性15.2% → R2 男性33.1% 女性24.7%） ・中心部で人口増、東部・西部で人口減少
02	経済動向	・市内総生産額は横ばい（R2 約1兆円）、医療・福祉産業が集積、鉱工業の割合増 ・農業産出額は野菜が約4割、経営体あたり産出額は国・県を上回る ・ゴム製品製造業の特化係数が高い、輸送用機械器具製造業の出荷額等が増加
03	都市構造	・2種類4つの都市計画区域が併存（市街化区域13.8%・市街化調整区域38.4%） ・主要8放射路線と主要環状道路3路線（都市計画道路整備率 R4 66.7%） ・道路・橋梁・上下水道などの生活インフラの老朽化が進行
04	財政状況	・R5久留米市決算：財政力指数0.64 経常収支比率 95.6% 主要4基金残高 131億円 ・中核市平均と比較すると、財政力指数低く、経常収支比率は高い ・営繕費や扶助費の増加など、財政の硬直化が懸念

3 現行の総合計画におけるまちづくり

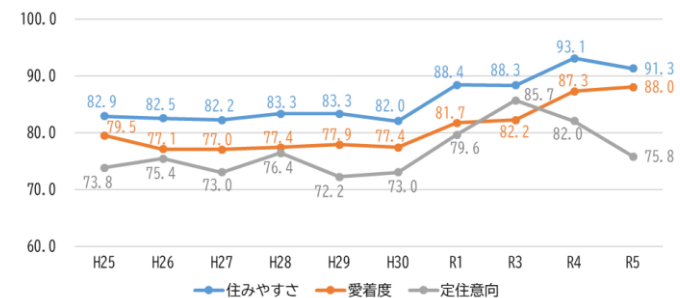
区分	主な取組
新総合計画（H13～R7）	
第1次基本計画（H13～16）	・えーるピア久留米、子育て交流プラザ、久留米ビジネスプラザ、六角堂広場などの整備 ・パブリックコメント制度、クリーンパートナー制度の導入による市民との協働 ・1市4町での合併により、市域エリアが拡大、人口や経済規模、産業構造が変化
第2次基本計画（H17～26）	・九州の県庁所在地以外で初の中核市に移行、市単独での保健所設置 ・九州新幹線鹿児島ルートの全線開業に伴うJR久留米駅周辺整備 ・校区コミュニティ組織設立、市民活動活性化補助金新設による協働の推進
第3次基本計画（H27～R1）	・久留米シティプラザ、久留米アリーナ、宮ノ陣クリーンセンターの整備 ・久留米・うきは工業団地や中心市街地への企業進出 ・豪雨災害対策や新型コロナウイルス感染症対策
第4次基本計画 前期事業計画（R2～R4）	・豪雨災害対策や新型コロナウイルス感染症対策 ・地域バイオコミュニティの認定などバイオ産業の拠点化の進行 ・市街化調整区域の駅周辺の立地基準の見直しや開発規制の緩和

4 現行の総合計画における主な成果と課題

都市像	施策の方向性	主な成果	今後の課題
誇りがもてる美しい都市	四季と歴史が見えるまち	・緑化の推進等による緑と花の量の増加 ・歴史遺産に触れる機会の提供	・緑の空間の拡大、計画的な更新 ・歴史遺産の効果的な情報発信
	快適な都市生活を支えるまち	・中心市街地人口の増加 ・都市計画道路の整備推進	・地域ニーズに応じた移動手段確保 ・社会インフラの老朽化
	外で活動したくなるまち	・都市公園の整備、Park-PFI制度導入 ・自転車通行空間の整備	・ニーズにあった施設リニューアル ・長期未着手の都市計画公園
	環境を育み共生するまち	・温室効果ガス排出量の減少 ・Z E B 認証の取得	・環境意識醸成の効果的アプローチ ・着実な上津CCの施設建替え
市民一人ひとりが輝く都市	人権の尊重と男女共同参画が確立されたまち	・拠点となる施設・環境整備 ・市審議会委員等の高い女性登用率	・法律施行を踏まえた人権教育・啓発 ・固定的性別役割分担意識の解消
	安全で安心して暮らせるまち	・ハード・ソフト両面の総合的浸水対策 ・一般刑法犯認知件数や交通事故発生件数の減少	・地域防災力の向上 ・高齢者事故対策、特殊詐欺対策
	心豊かな市民生活を創造するまち	・上質で多様な文化芸術の機会の提供 ・スポーツを実施する市民の割合の向上	・効果的な情報発信、普及啓発 ・生涯学習を通じた人材育成
	多様な市民活動が連帯するまち	・市民活動拠点整備、市民活動団体の増加 ・コミセン整備、まちづくり活動の活性化	・市民活動やまちづくり活動の維持 ・多様な主体の連携促進
	子どもの笑顔があふれるまち	・切れ目のない支援体制の充実 ・スポーツを実施する市民の割合の向上	・子どもが健やかに成長できる社会形成 ・学校統合、施設老朽化、不登校等対応
	健康で生きがいもてるまち	・総合的な保健サービス提供体制を構築 ・高齢者の通いの場や障害者の就労支援	・保健所機能の充実、健康寿命の延伸 ・自立して生活・活躍できる取組の推進
	お互いのやさしさと思いやりの見えるまち	・重層的支援体制の整備 ・高齢者や障害者等の支援体制整備	・様々な困難を抱える人を支える ・地域での包括的な支援体制づくり
	知恵と技術を創造するまち	・産業団地や中心市街地への企業進出 ・バイオ関連企業の集積	・新たな産業団地の整備 ・地域農業の担い手育成・確保
	アジアに開かれたまち	・先端的研究プロジェクトの設置 ・外国人相談窓口の設置	・学術研究都市づくりの新たな展開 ・外国人が安心して暮らせる環境整備
基本計画 推進に あたって	人と情報が行き交うにぎわいのあるまち	・まちなか居住推進・就労の場の創出 ・地域資源を生かした観光地づくり	・ニーズ変化に応じた中心市街地の機能 ・効果的な地域資源の魅力発信
	拠点都市の役割が果たせるまち	・移住支援補助を活用した移住増加 ・圏域内の連携・交流や新たな人の流れ	・ターゲットやニーズに応じた情報発信 ・近隣自治体と連携した事業展開
	協働によって築かれるまち	・協働によるまちづくりの環境整備 ・SNSや紙媒体と連動した効果的な広報	・様々な段階での協働の推進 ・更なる市民との情報の共有化
機能的でコンパクトな行政 経営を進めるまち		・歳入確保や歳出削減による財政改善効果 ・職員的能力向上や意識改革	・持続可能な財政運営 ・デジタル化・DX推進、民間活力導入

5 現行の総合計画における総合成果指標の状況

R5 市民意識調査では、「定住意向」（75.8%）が豪雨被害の影響などを受けて低下傾向にある一方で、「住みやすさ」（91.3%）と「愛着度」（88.0%）は高い水準で推移し、まちづくり全体としての市民の総合的な評価は高まっている。



※R2は、新型コロナウイルス感染症の影響で未実施



次期総合計画策定に向けた総括



6 現行の総合計画における基本計画指標の状況

〔第1次基本計画〕「目標達成見込（A）」または「概ね目標達成見込（B）」は、全体の約3割の状況
〔第2次基本計画〕「目標達成（O）」または「概ね目標達成（Δ）」は、全体の約6割の状況
〔第3次基本計画〕「数値目標なし（－）」を除く「目標達成（O）」または「概ね目標達成（Δ）」は、全体の約6割の状況

〔第4次基本計画〕「目標達成には努力を要する（B）」の項目が、全体の約9割の状況

都市の姿	指標名	基準値(R1)	実績値(R5)	目標値(R7)	評価
誇りがもてる美しい都市	季節感あふれるまちだと感じる	85.7%	85.0%	90.0%	B
	都市環境が充実しているまちだと感じる	61.9%	65.0%	70.0%	B
	外で活動しやすいまちだと感じる	56.3%	59.8%	65.0%	B
	環境に配慮した取組をしている	80.3%	82.2%	85.0%	B
市民一人ひとりが輝く都市	人権が尊重されているまちだと感じる	66.6%	64.4%	70.0%	B
	安全で安心して暮らせるまちだと感じる	74.9%	67.9%	80.0%	B
	心豊かに暮らせるまちだと感じる	73.1%	70.9%	75.0%	B
	地域をよりよくすることに取り組む	49.3%	52.2%	55.0%	B
	子育てしやすいまちだと感じる	75.0%	72.2%	80.0%	B
	健康であると感じる	75.2%	78.9%	80.0%	A
	地域での支え合いや助け合いが充実していると感じる	64.1%	60.1%	70.0%	B
活力あふれる中核都市	働きやすいまちだと感じる	54.5%	56.0%	60.0%	B
	国際性豊かなまちだと感じる	26.7%	26.7%	30.0%	B
	にぎわいのあるまちだと感じる	35.2%	36.7%	40.0%	B
	県南の中核都市だと感じる	58.8%	59.0%	65.0%	B

A：目標達成見込 B：目標達成に努力を要する C：目標達成が厳しい

7 現行の総合計画における施策に対する市民意識

令和5年度の市民意識調査において、施策に対する市民の重要度と満足度について、調査を実施した。施策33項目中、重要度が高く、満足度が低い領域に11項目が挙っており、平均との差からみて、行政ニーズが高くなっている。

順位	項目	重要度 (満点6点)	満足度 (満点6点)	順位	項目	重要度 (満点6点)	満足度 (満点6点)
1位	防災対策の充実	5.66点	2.20点	7位	幹線道路の整備	5.28点	2.85点
2位	労働環境の整備	5.31点	2.55点	8位	子育て支援体制の充実	5.42点	3.00点
3位	快適な都市環境の整備	5.31点	2.58点	9位	公共交通網の充実	5.24点	2.95点
4位	暮らしの安全対策の推進	5.36点	2.64点	10位	教育環境の充実	5.28点	3.03点
5位	地域産業の創出と振興	5.09点	2.44点	11位	高齢者福祉の充実	5.07点	3.12点
6位	行財政改革の推進	5.08点	2.53点	平均値		4.92点	3.16点

8 市民のまちづくり意見

市民アンケート（回答：2,847件）

<好きなところ・残したいところ>

- 住環境・自然
「ほどよい」「住みやすい」「暮らしやすい」
「都会」「田舎」「豊かな」「自然」「筑後川」
- 都市環境
「医療機関」「交通の便」「アクセス」
- グルメ
「美味しい」「焼きとり」「ラーメン」

<未来のイメージ>

- 住環境
「住みやすい」「暮らしやすい」「子ども」
- 都市環境・にぎわい
「久留米駅」「一番街」「商業施設」「商店街」
「医療機関」「活気」「遊べる」「増やす」

<どのようなまちにしたいか>

- ・子どもから高齢者まで安心して住めるまち
- ・支え合っていきたいと暮らせるまち
- ・地域がつながり豊かに安心して暮せるまち
- ・中核都市として引っ張っていくまち
- ・外国人住民と共存できるまち

市民まちづくりワークショップ（参加：128人）

<今後のまちづくりに必要な取組>

- ・シェアタクシーやAIなど新たな公共交通
- ・商店街のにぎわい
- ・避難所の環境向上、つながり
- ・社会とのつながりづくり、多様な人との共生
- ・久留米で働くことができる雇用
- ・市民が幸せであること

子どもの意見（学校出前授業：7校 約800人）

<好きなところ>

「自然豊か」「食べ物おいしい」「人が優しい」

<住みたいまち>

「みんなが元気」「自然が豊か」「気分ウキウキが
たくさん」「障害者への差別がない」

市民活動団体の意見（意見交換会：21団体）

<久留米に必要なこと>

- ・企業の市民活動への支援促進
- ・異文化交流の総合型の居場所整備
- ・女性や若い人が企画に関わる仕組み

9 今後のまちづくりに必要な視点

「時代の大きな転換期」～本格的な人口減少下で、これまでの延長線上にない新しい時代を見据えたまちづくりへ～

①人口減少に向き合ったまちづくり

- ・人口減少は、地域経済の縮小や社会活動を担う人材の不足、地域コミュニティの維持など、まちのあり方に大きな影響を及ぼし、人口や世帯構造を踏まえた行政サービスのあり方の転換が必要
- ・人口減少の緩和に最大限努めつつ、人口が減少しても、社会の機能が維持され、市民が安心して住み続けられるまちづくりを進めるため、社会のあらゆる分野でその影響を的確に見込みながら、戦略性をもってまちづくりを進める

②一人ひとりを大切にしたい人づくりと共生、協働の深化

- ・あらゆる施策において人づくりの視点をもって、一人ひとりが等しく尊重されながら、それぞれの個性や能力を発揮でき、日常に幸せを感じられるまちづくりを進める
- ・それぞれの違いを認め合い、支え合いながら共生できる環境づくりを進めるとともに、個人ができる活動や地域を構成する多様な主体が行う活動を広げながら、協働のしくみや環境づくりを深化させ、まちを築いていく

③時代の潮流をとらえたまち全体の変革・更新

- ・気候変動のリスクや急速なデジタル技術の進展、市民ニーズの多様化といった環境の変化への対応のみならず、変わらない都市の姿や機能、インフラの老朽化、まちの活力の低下などへの対応も必要
- ・社会環境や時代の変化を的確にとらえながら、都市基盤や都市機能、産業、制度など様々な領域で変革・更新を重ね、人々が久留米で暮らし、活動したいと思える、新たな魅力や活力を生み出すまちづくりを進める